

TPM優秀賞 制度改訂のご案内



公益社団法人日本プラントメンテナンス協会
TPM賞審査事務局

本改訂は2024年度TPM優秀賞より適用されます。
ただし、2024年度～2026年度の3年間は改訂前の受審要件、チェックリストを適用して受審することも可能です。

目次

1. 制度改訂の目的
2. 制度改訂による主な変更点
3. 変更内容
 - 1) 賞カテゴリーの分類/体系
 - 2) 受審要件
 - 3) セルフチェックリスト
 - 4) 審査方法
4. 制度改訂の適用開始時期

1. 制度改訂の目的

企業を取り巻く環境が日々変化するなか、製造現場においては組織形態が多様化し、技術革新による設備あるいは改善をはじめとした各種活動にも大きな変化が見られます。そのような中でもTPMは進化をつづけ、現在もグローバルに多くの企業で導入いただいております。

TPM優秀賞はこれまでも、企業の皆さまの変化に沿った制度の改訂をしてまいりました。今回の改訂も「生産機能に特化した組織」や「TPM以外の活動の拡大（混在）」への適応を意識したものです。生産現場を主体とした活動を評価しやすくするとともに、製造業の皆さまがTPM活動を維持・継続するための仕組み、あるいはさらに活動を広げステップアップするための一助となるものと考えております。

2. 制度改訂による主な変更点 — 1

- ◆ TPM活動は維持・継続が肝要です。しかし、受賞したことに満足し、TPM活動そのものをやめてしまう会社も見られます。そうした会社の現場では活動が後退し、各種指標も悪くなっていることが少なくありません。

TPM優秀賞は同じ賞に繰り返しチャレンジできます。これを明確に制度化しました。活動を進化、拡大させるだけでなく、維持・継続していく仕組みとしても賞制度をご利用ください。【参照 3. 1) 賞カテゴリーの分類/体系】

- ◆ 「生産機能に特化した組織」、つまり開発や管理部門の機能を持たない組織でも利用しやすくなります。TPM活動のベースはあくまで8本柱ですが、上位の賞も含め、組織あるいは活動の形にあわせて初期管理、管理間接部門の2つの柱は審査の対象から除いて受審することも可能とします。【参照 3. 2) 受審要件】

2. 制度改訂による主な変更点 ー 2

- ◆ はじめて受審する企業にとっては、自分たちが賞にチャレンジできるレベルにあるのか判断が難しい場合があります。JIPMではプレアセスメントという制度も用意していますが、自社で一定の判断ができ、またTPM活動のベーシックな部分を押さえていることを確認できるよう、**最初のカテゴリーであるTPM優秀賞に「セルフチェックリスト」**を用意しました。【参照 3. 3) セルフチェックリスト】
- ◆ TPM活動は現地・現物を基本とし、TPM優秀賞審査でも審査員が受審企業を訪問して審査を行っています。ただ、渡航や移動によるリスクや負担があり、一方ではIT技術の発展によりオンラインによってできることも増えてきております。そのため、**TPM優秀賞 第2次審査については、一定の条件を満たせばオンラインによる審査を認めることといたします。**【参照 3. 4) 審査方法】

3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系 — 1

TPM優秀賞のカテゴリーを、下表のとおり見直しました。

新旧のカテゴリー分類および体系を図示したものを、次ページにて確認いただけます。

旧制度	新制度
初めてチャレンジする賞カテゴリーは「カテゴリーA」もしくは「カテゴリーB」	「カテゴリーA」と「カテゴリーB」を統合。初めてチャレンジする賞は『TPM優秀賞』*となる
カテゴリーAもしくはカテゴリーBを受賞した後、「TPM優秀継続賞を受賞しなければTPM特別賞にチャレンジできない」	TPM優秀賞を受賞した後、『TPM優秀継続賞の受賞なしにTPM特別賞へのチャレンジが可能』
「同じ賞を何度も受審できる」ことが明確に示されていなかった	『繰り返し受審のステージ』を新設

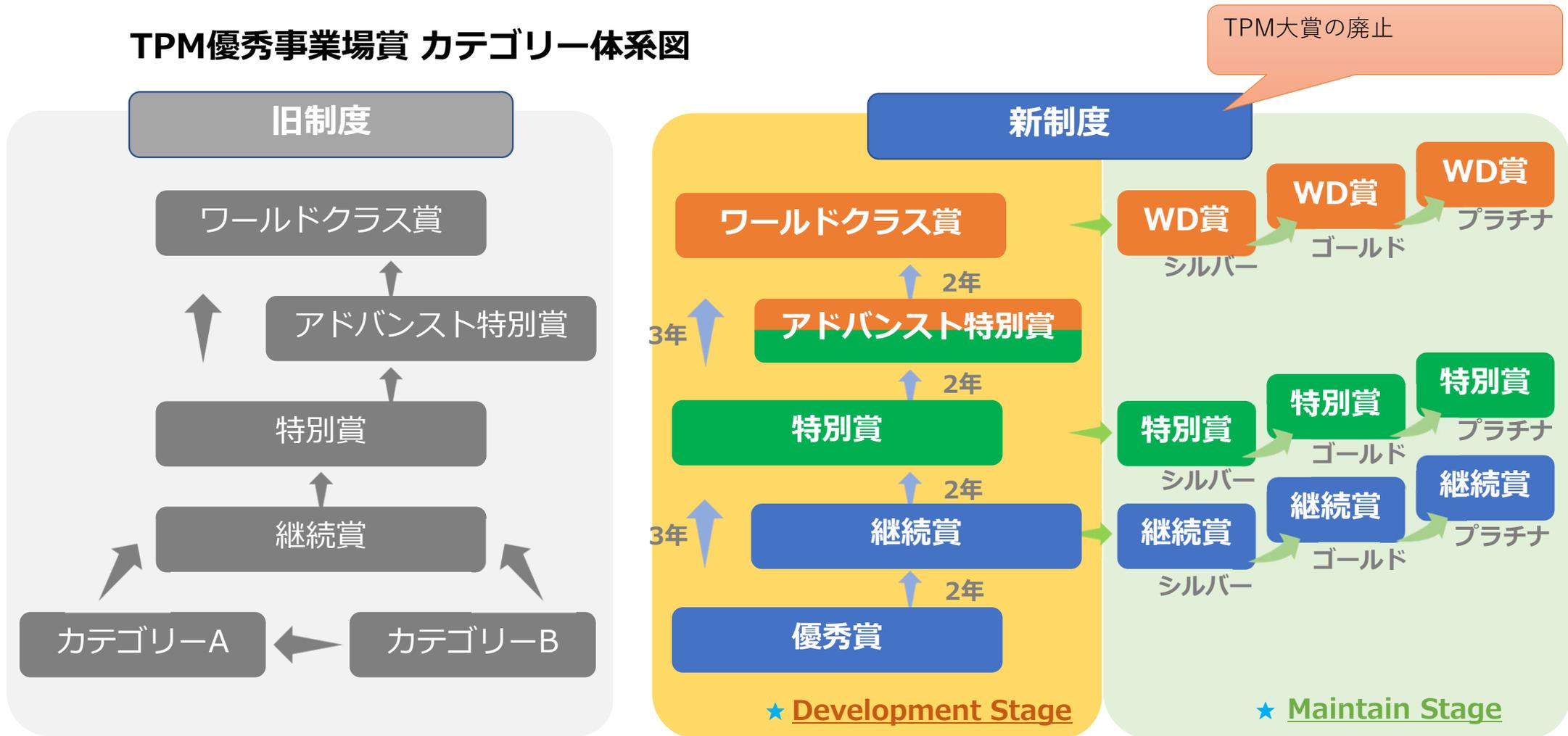
* 賞名とカテゴリー名が同一となるため、賞名の通称をTPM優秀事業場賞として表示します。

正式名称はTPM優秀賞のまま、変更いたしません。

3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系 — 2

TPM優秀事業場賞 カテゴリー体系図



3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系

◆ TPM優秀賞の賞/カテゴリー名について

日本語

英語

- 賞名

TPM優秀賞

TPM Excellence Awards

通称：TPM優秀事業場賞

- カテゴリー名

TPM優秀賞

Award for TPM Excellence

TPM優秀継続賞

Award for Excellence in Consistent TPM Commitment

TPM特別賞

Special Award for TPM Achievement

TPMアドバンスト特別賞

Advanced Special Award for TPM Achievement

TPMワールドクラス賞

Award for World-class TPM Achievement

3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系 (解説)

- ◆ 賞のファーストステップカテゴリーは『TPM優秀賞』
賞カテゴリーの分類として最も大きな変化があるのが、TPM優秀事業場賞におけるファーストステップである「カテゴリーA」および「カテゴリーB」が統合され、『TPM優秀賞』となることです。後述しますが、求められる**最小要件は全カテゴリー6本柱**となります。
- ◆ 「TPM優秀継続賞」の受賞なしに『TPM特別賞』へのチャレンジが可能
これまでは『TPM特別賞』の受審要件として「TPM優秀継続賞」を受賞している必要がありましたが、今回の改訂により「TPM優秀賞」を受賞していれば「TPM継続賞」の受賞は必須としないこととしました。
ただし、審査基準自体は変わりませんので、従来の「TPM優秀継続賞」で確認していた**「活動の維持・継続が仕組みとして定着していること」**が求められます。

3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系（解説）

◆ 同じカテゴリーの受審を繰り返す『Maintain Stage』を新設

従来より、すべてのカテゴリーを繰り返し受審することができましたが、そのことをより明確に示すために『Maintain Stage』を新設しました。活動を進化・深化、拡大させるのがより上位の賞を目指していく『Development Stage』と位置づけ、『Maintain Stage』は活動を着実に継続させたい事業場に利用いただくことを想定しています。

なお、『Maintain Stage』は「TPM優秀継続賞」、「TPM特別賞」、「TPMワールドクラス賞」に設けております。2回目のチャレンジからは「シルバー」、「ゴールド」、「プラチナ」と繰り返しの回数に応じて称号も変わり、長くTPM活動を継続できていることがわかるようにしています。

3. 変更内容

1) 賞カテゴリーの分類/体系 (参考)

- ◆ 「TPM優秀継続賞」、「TPMアドバンスト特別賞」の位置づけについて (参考)
後述しますが「TPM特別賞」は独自の強み、「TPMワールドクラス賞」は世界No.1あるいはOnly 1を作りあげる活動と位置づけております。
これに対し、「TPM優秀継続賞」は「TPM優秀賞」で築いたものを維持、継続させるために定着させること、「TPM特別賞」に向けて独自の強みと言えるものを作る基礎作り、この2つの位置づけを持ちます。
同様に「TPMアドバンスト特別賞」についても、「TPM特別賞」で作りあげた独自の強みを定着させること、「TPMワールドクラス賞」に向けてNo.1あるいはOnly 1を目指した活動をする、この2つの位置づけを持ちます。
新体系では「TPM優秀継続賞」、「TPMアドバンスト特別賞」は上位の賞を受審するための要件とはなりません、事業場の目指す活動によってご利用ください。

3. 変更内容

2) 受審要件

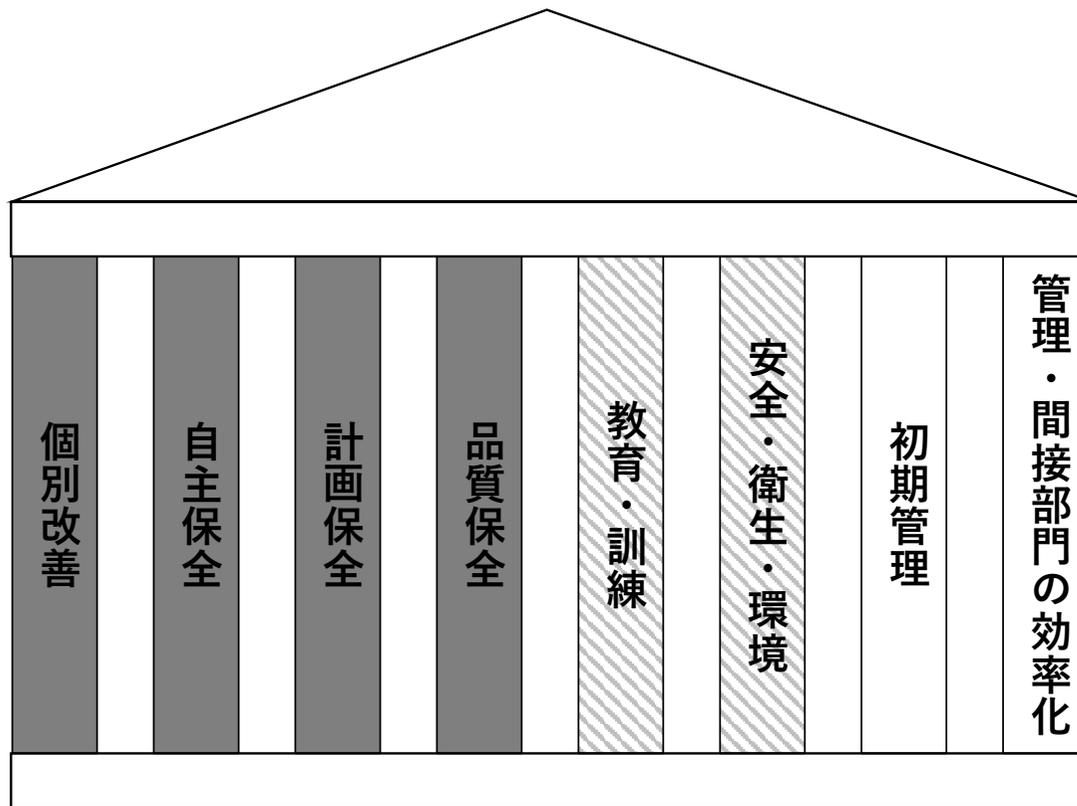
TPM優秀事業場賞の受審要件を、下表のとおり見直しました。

旧制度	新制度
カテゴリーB（5本柱）を除いて、全てのカテゴリーで8本柱の活動が必要	→ 全てのカテゴリーで8本柱の活動を基本とするが、初期管理、管理間接部門の柱については審査の対象から外すことが可能
TPM特別賞を受審するには、TPM優秀継続賞を受賞していなければならない	→ TPM特別賞を受審するには、TPM優秀賞を受賞していなければならない（TPM優秀継続賞の受賞を要件としない）
TPMアドバンスト特別賞は、活動キックオフ時に申請のうえ、重点テーマを設定して受審することができる	→ TPMアドバンスト特別賞における重点テーマを設定しての受審方法は廃止する

上記のほか、表現などでの修正がございます

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)



直接生産活動に関わる柱

TPM実施に
必須の柱

事業場によってはその
機能を持たない柱

- 個別改善、自主保全、計画保全、品質保全の各柱は、生産活動におけるロスの削減及びOEEの向上に直接関係する柱であり、必ず実施する必要があります。
- 教育・訓練、安全・衛生・環境の各柱は、TPMを実施するために必要となる活動です。
- 初期管理、および管理・間接部門の各柱は、事業場によってはその機能を持たない場合もあるため、TPM優秀賞審査においては必須の活動とはしません。

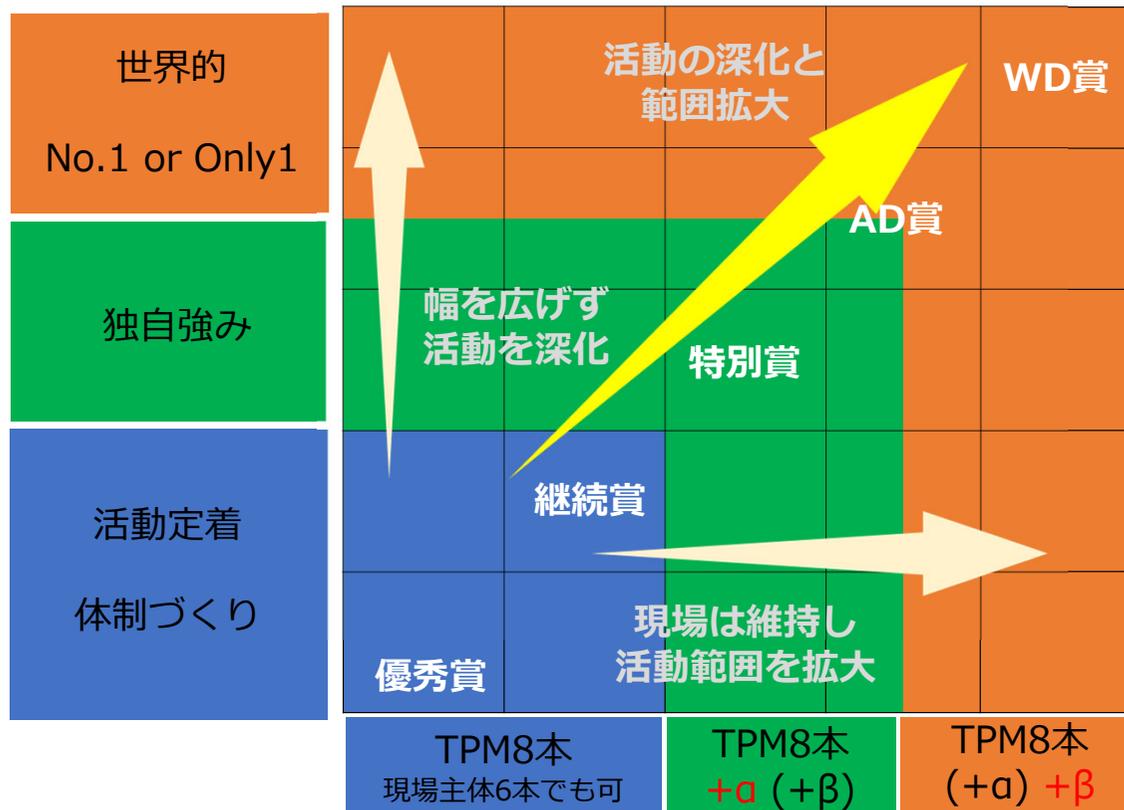
実際において、各柱の活動が複合的（あるいは別の名称）に進められるなど独自に展開していても、それぞれの活動の要素を含んでおり、その説明をすることができれば受審可能とします。ただし、事前（できれば受審検討時）にTPM賞審査事務局に相談いただくのが望ましいです。

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)

新受審要件のイメージ図

活動レベル
Deeply
Aggressive



軸となる活動領域 (経営の視点)
Widely

+ α : 付加/独自活動
+ β : 戦略的活動

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)

◆ 軸となる活動領域 (Widely) の考え方

TPM優秀事業場賞 受審における**最小要件**は現場主体の6本柱となりました。しかし、とくに上位カテゴリーでは、事業内容あるいは事業規模から、以下のように活動領域の拡大を検討することも必要です。

+α の活動 : 付加活動あるいは独自の活動

主に 工場内あるいは工場業務に隣接する範囲の活動

+β の活動 : 戦略的な活動

主に 工場外 (本社機能、サプライヤーなど) を巻き込む活動

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)

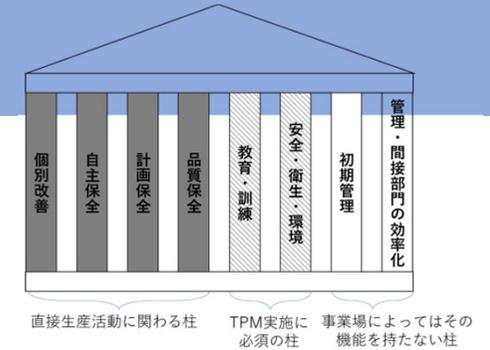
◆ 活動レベル (Deeply/Aggressive) の考え方

TPM活動を進めるなかで、これまでの活動をさらに進めて進化、深化させていくことも必要になります。

TPM優秀賞やTPM優秀継続賞は活動を定着させ、仕組み化するための体制づくりの段階です。TPM特別賞は自社独自の強みを明確にし、TPMアドバンスト特別賞でその強みをさらに強固にしていきます。TPMワールドクラス賞は強みを発展させ、世界No. 1あるいはOnly 1という位置を目指します。

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)



◆ 基本活動の充実

- ・現場主体の6本柱
- ・初期管理（設備）
- ・事務・間接

◆ +αの活動の例（付加活動あるいは独自の活動＝主に工場内あるいは工場業務に隣接する範囲の活動）

- ・個別改善の派生活動として コスト活動
- ・計画保全の派生活動として 金型保全活動
- ・初期管理（製品）
- ・安全・衛生・環境を 安全・衛生 と 環境 に分割 …など

◆ +βの活動の例（戦略的活動＝主に工場外（本社機能、サプライヤーなど）を巻き込む活動）

- ・サプライチェーン活動（関連で物流、営業、購買）
- ・情報革新活動（関連でIT化、Web活用、マーケティング）
- ・スマートファクトリー（関連でローコストオートメーション）
- ・カーボンニュートラル、エネルギー削減、環境活動
- ・ベンダーにおけるTPM …など

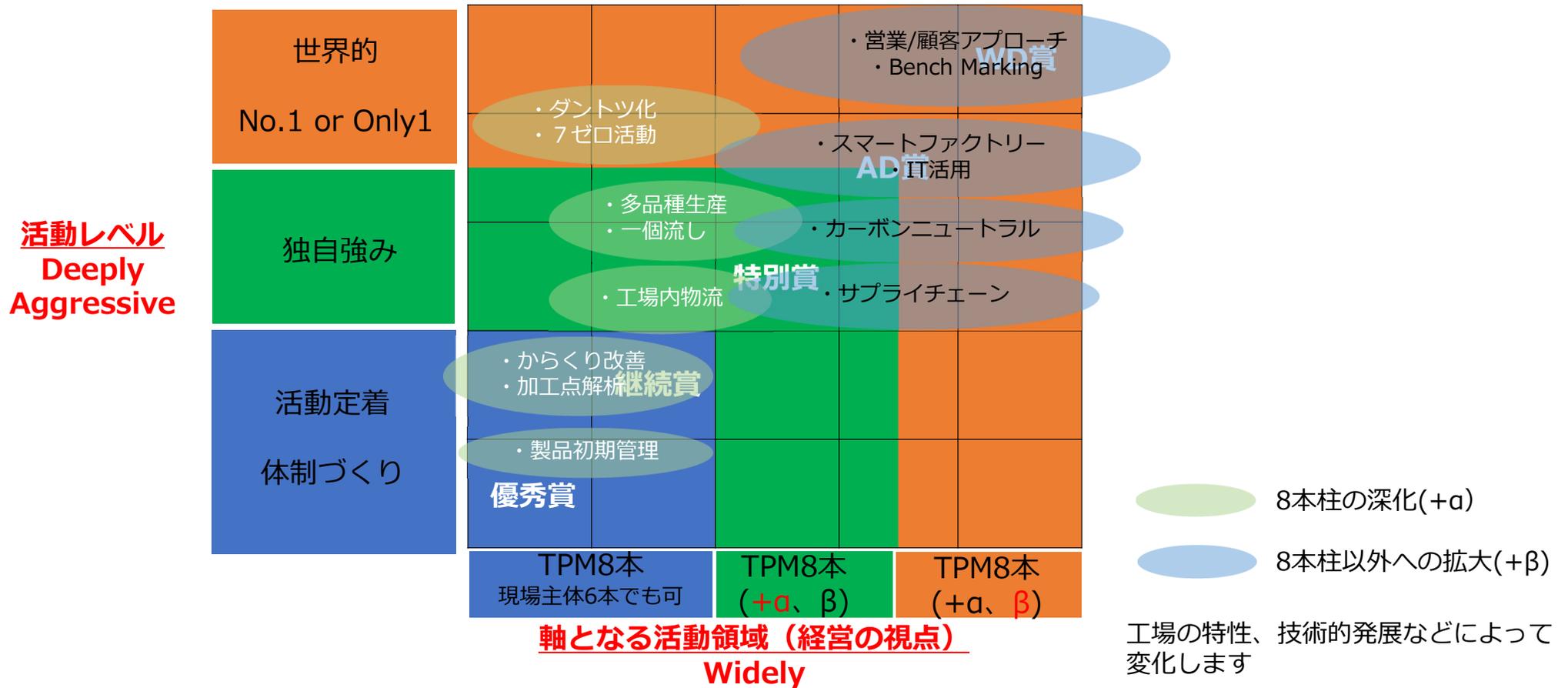
◆ 深化させる活動の例

- ・7ゼロ活動
- ・活動のダントツ化 …など

3. 変更内容

2) 受審要件 (解説)

新受審要件のイメージ図 (付加/深化活動例のプロット)



3. 変更内容

3) セルフチェックリスト

■ セルフチェックリスト

改訂後のTPM優秀事業場賞において、初めてチャレンジする賞カテゴリーは「TPM優秀賞」となります。第1ステップと言うべきこのカテゴリーを受審するにあたり、**クリアすべき活動内容あるいは活動水準を示したものがセルフチェックリストです。**賞を目指すにあたっての活動目標としても利用いただけます。

セルフチェックリストとは？

- TPM優秀賞へのチャレンジが可能かを**受審事業場自身で判断いただけます。**
- 審査においては、**審査員もこのリストを参考にした評価を行います。**

3. 変更内容

3) セルフチェックリスト

■ セルフチェックリストによる受審判断

TPM優秀賞を受審する際、応募する事業場自身がセルフチェックリストにある対象の質問すべてに回答したうえで、以下の2つの基準を満たしていることが必要です。

1. 「必須項目」のすべてが「3点」以上であること
2. 全項目の平均が応募時点で「2.5点」以上であること

(柱の設定は企業申告により6～8本)

なお、事業場自身の評価でこの基準を満たしていても、これによりTPM優秀賞の受賞を約束するものではありません。

3. 変更内容

3) セルフチェックリスト(解説)

◆ セルフチェックリストの位置づけ

セルフチェックリストは「TPM優秀賞」および「TPM優秀継続賞」において、従来のチェックリストに置き換わるものとなります。TPM特別賞、TPMアドバンスト特別賞、TPMワールドクラス賞については、従来のチェックリストから変更ありません。

セルフチェックリストは活動の進み具合によって0～5点の点数評価ができるようになっていきます。自社の活動がTPM優秀賞にチャレンジできるレベルにあるか、自己判断するための指針としても活用いただけます。

なお、「TPM優秀継続賞」についてもセルフチェックリストを使って審査を行いますが、全ての項目において「TPM優秀賞」受賞時の点数を下回らないことが求められます。

3. 変更内容

4) 審査方法

◆ 審査方法の変更

現在、Covid-19の影響による特殊なケースを除き、TPM優秀賞審査は受審事業場を審査員が訪問する現地審査を原則としています。

一方で、渡航が困難な地域であったり、時期などによって特殊事情があることを鑑み、2次審査に限りオンライン審査で実施することも認めることといたします。

オンライン審査は、事業場からの実施希望を受けたうえで、1次審査を担当した審査員およびTPM賞審査事務局がオンラインによる対応可否を判断いたします。

4. 制度改訂の適用開始時期

	2024	2025	2026	2027
新制度	適用開始 			
旧制度	利用可能	利用可能	利用可能	利用 不可

◆ 新制度の適用開始時期について

新制度は、事業場がTPM優秀事業場賞を利用しやすくなる改訂を中心としているため、2024年度から適用を開始します。

一方で、カテゴリ-Bを目指していた事業場にとっては、活動の柱が増えることになるため、2024～2026年度の3年間は旧制度（5本柱）での申請も認めます。

「TPM優秀賞」は原則としてセルフチェックリストに基づく審査としますが、希望があれば旧チェックリストに基づく審査も可能です。

TPM賞審査事務局

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会

TPM賞審査事務局

TEL 03-6865-6081

Mail tpmawards@jipm.or.jp